

岡山県における「道の駅」での取り組み事例の紹介

～おもてなし～「道の駅」トイレリニューアル事業

岡山県 土木部 道路整備課

1. はじめに

「道の駅」は、道路利用者の利便性向上と施設の利用促進を図り、安全で快適な道路交通環境の形成、並びに地域の振興に寄与することを目的とした道路施設である。1993年に国が『「道の駅」登録・案内制度』を制定し、同年に103駅が「道の駅」に登録されたことに始まり、今や1,173駅（2020年3月現在）が登録されており、生活に欠かせない公共施設へと発展してきた。制度発足当初の道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、「情報発信機能」、そして活力ある地域づくりを行うための「地域連携機能」の三つの要件を併せ持つ施設であった。その後、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みが進められ、「地域防災」「地域福祉」など地域の課題解決の拠点、「地方創生」の拠点として位置づけられるようになり、現在では「道の駅」自体が目的地となるまで成長している。

さらに、令和元年11月に新「道の駅」のあり方検討会から道の駅の第3ステージに向けた提言がなされた。今後は「道の駅」が新たなインバウンド観光拠点となるための取り組みや、防災拠点として機能するための取り組み、あらゆる世代が活躍するための環境を提供するための取り組みが求められている。

2. 岡山県の道の駅

岡山県には下図のとおり道の駅が16駅あり、そのうち岡山県が道路管理者である一体型の道の駅は12駅ある。

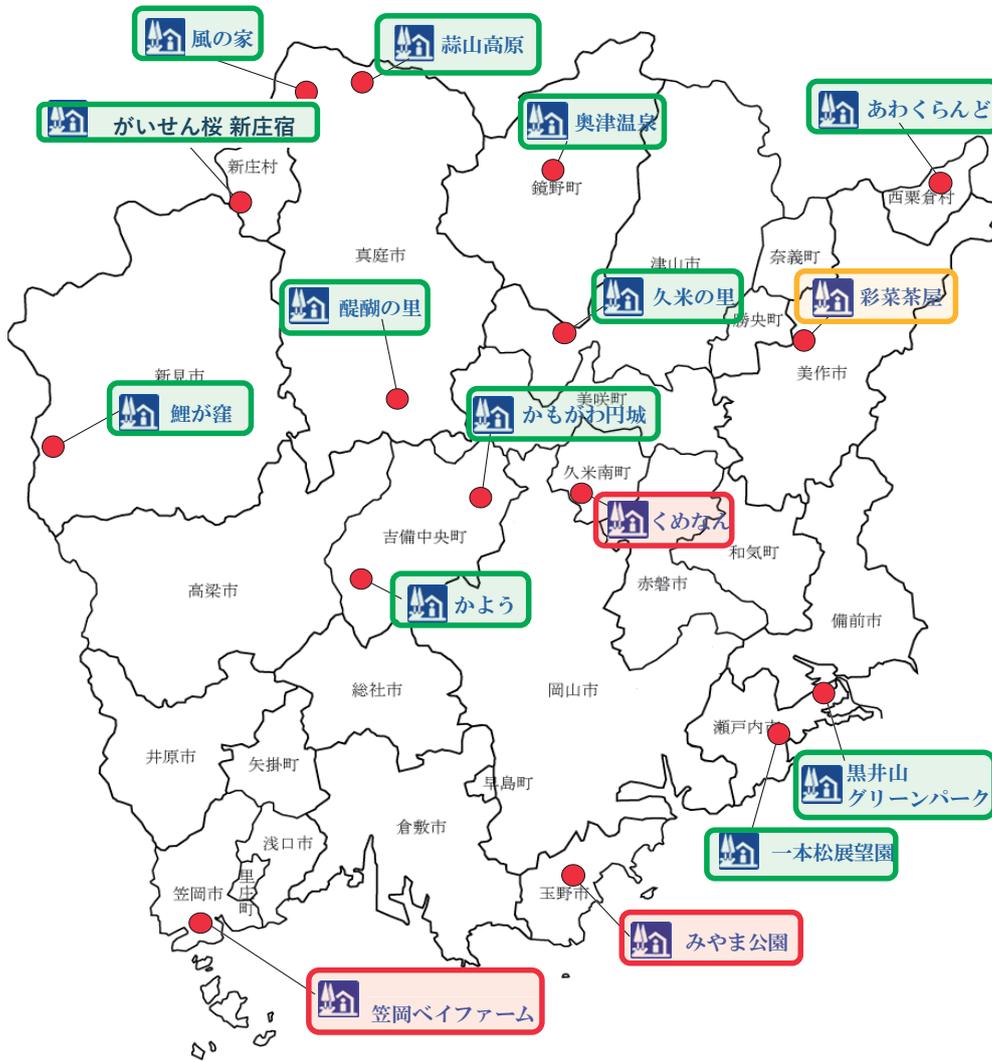
県内に設置されている道の駅の多くは設置から20年以上が経過しており、特にトイレ施設の老朽化が顕著となっている。近年の公共トイレは、バリアフリー対応はもちろんのこと、子供や女性に配慮した快適な空間としての整備が求められており、また、岡山県においても訪日外国人旅行者が増加していることから、案内誘導の多言語化対応も求められている。しかし、県内の道の駅のトイレは、洋式化や多言語化への対応がなされておらず、外国人旅行者や高齢者等にとって利用しづらいほか、「汚い」「暗い」等の声も多い状況であった。

3. 岡山県の道の駅におけるユニバーサルデザイン化への取り組み

「ユニバーサルデザイン」は、ユニバーサル（全ての、普遍的な）とデザイン（計画、設計）の2つを組み合わせた言葉である。「年齢、性別、能力、国籍など個人の特徴にかかわらず、はじめから、全ての人にとって安全・安心で、利用しやすいように、建物、製品、サービスなどをデザインする」という、非常に幅広い意味で使われている。

岡山県「道の駅」位置図

 : 国・市町村一体型
 : 県・市町村一体型
 : 市町村単独型



■ 県内の「道の駅」一覧表

市町村名	駅名	道路名	登録時期	供用時期
吉備中央町	かもがわ円城	国道429号	H5. 11. 24	H6. 5. 31
新庄村	がいせん桜 新庄宿	国道181号	H5. 11. 24	H7. 10. 13
西粟倉村	あわくらんど	国道373号	H6. 8. 4	H6. 8. 10
久米南町	くめなん	国道53号 (直轄)	H7. 8. 3	H8. 4. 26
玉野市	みやま公園	国道30号 (直轄)	H8. 4. 16	H8. 4. 5
瀬戸内市	一本松展望園	県道寒河本庄岡山線	H8. 4. 16	H8. 4. 20
瀬戸内市	黒井山グリーンパーク	県道寒河本庄岡山線	H8. 4. 16	H8. 4. 20
新見市	鯉が窪	国道182号	H8. 8. 5	H9. 4. 18
真庭市	蒜山高原	県道蒜山高原線	H8. 8. 5	H9. 4. 23
美作市	彩菜茶屋	県道美作奈義線	H9. 10. 22	H9. 10. 22
真庭市	風の家	国道482号	H9. 10. 22	H10. 4. 27
鏡野町	奥津温泉	国道179号	H11. 8. 27	H11. 8. 27
津山市	久米の里	国道181号	H12. 8. 18	H12. 8. 18
真庭市	醍醐の里	国道313号	H14. 8. 13	H14. 11. 3
吉備中央町	かよう	国道484号	H15. 8. 8	H16. 4. 1
笠岡市	笠岡ベイファーム	国道2号 (直轄)	H23. 3. 3	H23. 8. 4

※登録日順

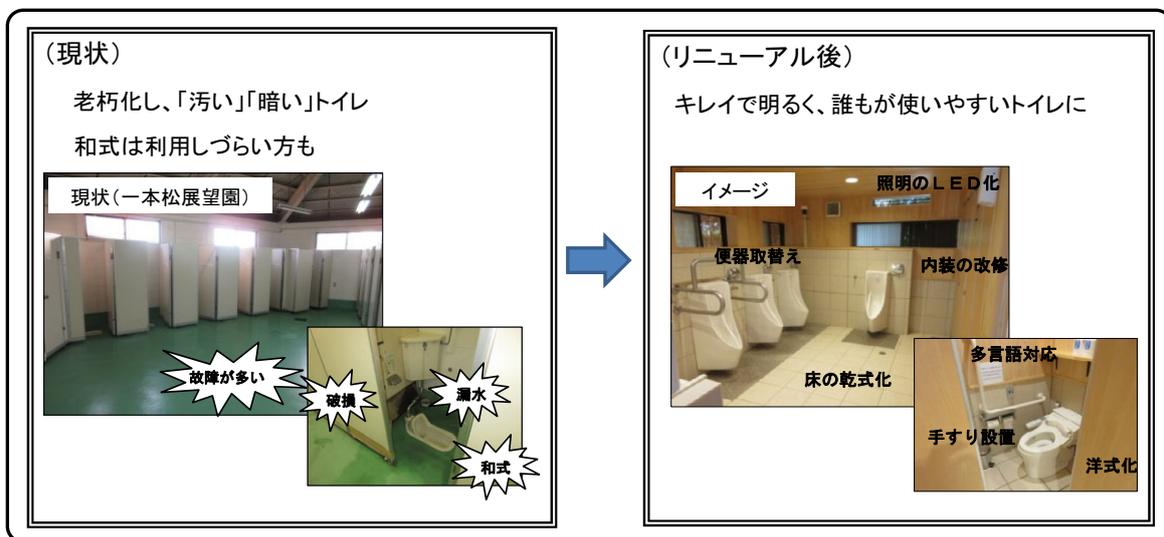
岡山県では、若い人もお年寄りも、障害のある人も、男性も女性も、県政の主役である全ての県民が、明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現を県政の基本目標とし、その達成に向けて取り組んでいる。道の駅では、平成17年度に利用する全ての人にとって、安全・安心で、利用しやすい施設となることを目的に、ユニバーサルデザイン化総点検を実施しており、その点検結果に基づき、道の駅UD化推進事業として、段差の解消やオストメイト器具の設置、分かりやすい案内標示の整備など、ユニバーサルデザインに配慮した道の駅のリニューアルに取り組んできた。

4. ～おもてなし～「道の駅」トイレリニューアル事業

岡山県を訪れる外国人旅行者宿泊者数は平成24年度以降7年連続で増加し、平成30年度には過去最高の約35万7千人を記録している。外国人旅行者の来訪を一過性のものにせず、今後もリピーターを増やしていくためにも、道の駅にはさらに外国人旅行者への快適な休憩空間提供の役割が求められている。また、世界的に少子化や高齢化が進む中、高齢者や子育て世代を支援する取り組みを推進していくことは必要不可欠となっている。

これらのことから、外国人旅行者や高齢者等、誰もが安心して快適に使用できるよう、便器の取替え（大便器を洋式化）や床の乾式化、内装の改修、照明のLED化、多言語対応など、キレイで明るく使いやすいトイレに改修するため、令和元年から2年間の～おもてなし～「道の駅」トイレリニューアル事業に取り組んでいる。

同事業では、岡山県が所管する道の駅のトイレのうち、洋式化ができていないなど未改修の6駅を対象としている。なお、施設の老朽化や洋式化率、利用状況等を勘案し、必要性が高い駅から順に整備を行っている。



効果

道の駅トイレリニューアル

- 便器取替え(大便器は洋式化)
～誰もが使いやすい～
- 床の乾式化
～臭い削減、衛生面向上～
- 内装の改修
～快適な空間に～
- 照明のLED化
～明るいトイレに～
- 操作方法、案内の多言語対応
～外国人旅行者へ対応～

快適な休憩空間の提供
= おもてなしの一環



本県のイメージアップ

効果

- ・道の駅を拠点とした周遊観光促進
- ・観光客のリピーター増加

5. トイレ改修方針

外国人旅行者や高齢者等、誰もが安心して快適に使用できるよう、キレイで明るいトイレに改修を行う。改修にあたっては、『道の駅』のトイレの改善に関するチェックポイント』や「NEXCO 設計要領」等を参考とし、下記の点に留意して設計を行っている。

- ・24時間いつでも安心して快適に利用できるよう、照明をLED化し、十分な明るさを確保するとともに、空気を入れ替えるため換気扇を設置する。
- ・防虫対策や暖房設備など一年を通じて快適な利用ができる設備整備を計画する。
- ・清掃用具、消耗品の収納スペースなど維持管理を見据えた設備整備を計画する。
- ・全ての人が快適に利用できるよう、多目的トイレを整備する。
- ・大便器は全て温水洗浄便座付の洋式便器に取替える。
- ・大便器、小便器は停電時においても使用及び自動洗浄が可能なものを設置する。
- ・床は乾式清掃が可能な材質で改修する。
- ・手荷物を置く棚やフックを設置する。
- ・手洗い場の水の「出・止」はセンサー式とする。
- ・個室には手すりを設置する。
- ・トイレ機能や使用方法の案内は多言語表記（4カ国語標記（日・英・中・韓））のほか、ピクトサイン等を用いて、誰にでもわかりやすい表示を行う。
- ・ハンドドライヤーを設置する。
- ・入口に手動扉を設置する。
- ・男子、女子トイレのブース内に各1箇所ベビーチェアを設置する。
- ・設計は、施工費と維持管理費の経済性を考慮したものとする。

6. 改修状況

令和元年度に改修を行った道の駅一本松展望園における変更前、変更後の写真及び施設数量を下に示す。全ての大便器が洋式化され、男子女子それぞれにベビーチェアが設置される等、高齢者や子供連れにでも安心して使用できるようになっている。また、LED照明の設置や床の乾式化により、明るく清潔感のあるトイレになっている。さらに、出入口にはピクトグラムと多言語化により外国人旅行者にも分かりやすい案内となっている。

道の駅一本松展望園 完成写真

<改修前>

<改修後(完成)>

外観



内部(男子トイレ)



内部(女子トイレ)



内観(多目的)



道の駅一本松展望園 変更数量

		改修前	改修後			改修前	改修後
男子便所	小便器	10	7	多目的便所	大便器(洋)	1	1
	大便器	4 (和3洋1)	4 (洋4)		ベビーベッド	0	1
	手洗器	4	3		手洗器	1	2
	へびーチェア	0	1		汚物流し	0	1 (オストメイト設備)
	照明器具	6	17 (男子便所14柱・#3)		照明器具	1	1
	掃除具庫	1	1		へびーチェア	0	1
	掃除用流し						
女子便所	大便器	14 (和12洋2)	11 (洋11)				
	手洗器	6	5				
	へびーチェア	0	1				
	照明器具	11	23 (女子便所22柱・#1)				
	掃除具庫	1	1				
	掃除用流し						



多言語・ピクトグラム
が表記された案内

7. おわりに

令和元年度は対象となる6駅中3駅のトイレ改修が完了しており、令和2年度は残りの3駅を順次改修する予定である。道の駅のトイレリニューアルにより、外国人旅行者や高齢者等全ての方々に快適な休憩空間を提供することができ、道の駅を拠点とした周遊観光促進や、イメージアップによる観光客のリピーター増加につながると考える。

今後は「道の駅」第3ステージで掲げる「地方創生・観光を加速する拠点」に向けて、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを行うとともに、地域経営の拠点としての力を高めるなど、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献できるよう整備を進める必要があると考える。